

## 新豊川市民病院基本設計プロポーザルの審査結果について

新豊川市民病院基本設計プロポーザル審査委員会

さる8月24日に締め切った新市民病院基本設計プロポーザルについて、審査委員会は二次にわたる審査を行い、9月13日に審査結果を病院事業管理者に報告した。報告を受けた病院事業管理者は、9月14日に市長と協議し、下記の通り決定したので、ここに公表する。

受託候補者 : 株式会社 日建設計 名古屋オフィス  
次点者 : 株式会社 日本設計 中部支社

### 審査経過

今回の選定においては、平成21年6月1日に審査委員会を設置し、同年7月1日に、第1回審査委員会を開催した。この委員会において、新市民病院基本設計プロポーザルの方針となる、プロポーザル説明書の内容について検討を行った。

第1回審査委員会での検討結果をもとにプロポーザル説明書を定め、同年7月3日に公告を行い、7月10日の参加表明書の締め切りまでに9者から参加表明書の提出があり、7月13日にはその9者に対し、当院にて現場説明会を行った。

質問に対する回答が7月27日に公表され、最終的には8月24日に8者(1者辞退)からプロポーザルが提出された。

提出されたプロポーザルをもとに第2回審査委員会を開催し、プロポーザルの書類審査を行った。委員会においては、まず各プロポーザルの内容について一者ずつ確認作業を行い、委員の間におけるプロポーザルに対する理解の一致を図り、一人一人の委員がそれぞれのプロポーザルについての意見を述べた。その後、委員が各自4票ずつの無記名投票を行い、投票数が1票及び2票の3者については、審査の対象から除外した。その後、改めて5者について審議し、参加者番号①、②、③、④及び⑦の5者を、第3回審査委員会におけるヒアリングの対象者として決定した。

第3回審査委員会においては、各者からプロポーザルについて15分の説明を受けた後、25分の質疑応答を行い、その後、特定のための審議を実施した。まず、各委員がヒアリングを終了した段階での各者に対する意見を述べ、これまでの議論の整理を行った。その後、委員が各自2票ずつの無記名投票を行い、投票数が0票及び2票の2者については、審査の対象から除外した。その後、改めて3者の特徴についての議論を行い、それぞれの提案の実現性及び問題と指摘された部分の修正の可能性等について議論を重ねた。その結果、審査委員の総意として受託候補者及び次点者を特定した。

なお、審査委員会の審査において参加者名は全て匿名により行った。

## 審査講評

### ●総評

今回の新市民病院の再整備計画は八幡地区に新しい敷地を求めて移転改築を行う事業である。敷地は東西に広がった約4万2千㎡の面積を有しており様々な提案が期待されたが、提出された8つの提案のうち、7つの提案において建物が敷地の東側、駐車場が敷地の西側となっており、その中で6案が立体駐車場を北側、1案が敷地中央に配置していた。また、1つの案は敷地全面に大きく低層の病院を計画したものであった。このようなことから敷地の使い方については大きな差が見られず、審査における評価のウェイトとしては差がつきにくいものとなった。また、今回の審査の中で来院患者の主たる交通手段である車でのアクセスの処理についてはあまり大きな差が見られなかったが、八幡駅からの患者をどのように建物の中に導くのかについて差が見られた。

このように審査の中では外来患者や救急患者のアクセスの利便性、病棟や中央診療部の運営方法との適合性、建設コストの提案に対する評価、震災を中心とする災害時への対応の可否、各部門間の連携への配慮などについて議論が行われた。

各者の真摯な検討のもとに作成された提案書ではあるが、それぞれの提案は、強く明確な特徴があるために、必ずしもすべての課題を満足するものとはなっていないため、今後の基本設計作成段階において対応可能かどうかを含めて議論を行い、最終的な特定を行った。

5者に対するヒアリングを終了した後に、改めて各提案内容を振り返り、病棟の計画や面積配分など本質的な疑問が生じた2つの提案を除いて議論を進めた。その結果、それぞれ全く取り組み方が異なる残った3案が最後の検討対象となり、いずれも極めて質が高い提案をどのように評価するかについては困難な特定作業となった。

### ●個別評価

最終的な選定過程において評価の対象となった3案について提案の概要と評価を記す。

#### 受託候補者

株式会社 日建設計 名古屋オフィス

この提案は様々な課題に対する提案内容のバランスがとれており高く評価された。外来部門に3層吹き抜けのモールを配していることが、外来診療部門のわかりやすさと空間全体の把握に役立っており、またこのモールを利用して八幡駅からの患者をスムーズに建物内に誘導することができている。将来の病院の増築に対しても3段階での対応を提案するなど病院の成長と変化への配慮も伺えた。また大規模災害時への対応も具体的なものとなっている。病棟は中央にスタッフステーションを配置しており病棟全体の把握も行いやすい。一方、外来診療部門や中央診療部門の各ブロックの配置、病棟の4床室の計画に関して審査委員から疑問が示され、今後の基本設計段階に

における詳細な検討の必要性が指摘された。しかし、これらの課題はヘリポートの見直しをはじめ基本構想にとりまとめられている計画案を参照しつつ、今後の検討において対応が可能なものと判断した。またヒアリングにおいても担当者の説明及び質疑応答における回答も詳細な検討を行っていることをうかがわせ、今回の業務を委託するにたる十分な力量を有していると判断し、最も優れた提案者として受託候補者に特定した。

#### 次点者

株式会社 日本設計 中部支社

この案はいくつもの新しい提案を盛り込んだ極めて意欲的な提案書となっている。病棟の専門性とそれに関連した診療部や外来部を同じフロアーに設置する「併置型プラン」や、徹底した規格化によるコストダウンの手法などは高い評価と共にその実現性において慎重な議論がなされた。一方、提案された病棟の動線の長さに不安が残ることや、今後の増改築といった成長と変化に対する提案が明確に示されていないこと、また平置駐車場の配置を含む敷地の使い方などに疑問が示された。しかし、本提案の新しい試みが魅力的であったことを評価し次点とした。

#### A案

この案は自然の光を病院内の各所に取り込むことをテーマとしており、全体として様々な課題に対して極めてよく練られたまとまりがよい提案書となっている。しかし、駅からの外来患者を含む来院者が建物西側の主玄関まで回り込まなければならないこと、将来の成長と変化に対する提案が不十分であることなどを問題として指摘した。